



“アジア大都市ネットワーク21” 東京総会公式視察と“東京・アジア月間”について

(財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課
主査 小宮山 徹 (東京都派遣)

はじめに

東京都では、2010年11月7日から10日までの4日間にわたり、アジアの大都市による共通の課題解決とアジア地域の発展に向けた連携・協力を目的としたネットワークである「アジア大都市ネットワーク21」の第9回総会を東京で開催しました。

今回は、総会のテーマである「環境」と「産業振興」について理解を深めるために行われた公式視察の中から、「海の森」と「産業交流展2010」の様子についてお伝えします。

また、総会開催にあわせて、10月、11月を「東京・アジア月間」と設定し、都民にアジアの伝統や文化などを紹介する多彩なイベントを開催しましたので、あわせてお伝えします。

(ネットワークの共同事業と東京総会の概要は、自治体国際化フォーラム2月号：特集「地域の発展に向けた国際ネットワークの構築」をご参照ください。)

環境負荷の低減と経済交流の促進へ向けて

東京総会には、会員都市であるバンコク、デリー、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、ソウル、シンガポール、台北、東京、ヤンゴンの11都市と、オブザーバとしてトムスク（ロシア）からの代表団が参加しました。

会期中、各都市の代表団は、総会での政策対話や討議のほか、都内の施設やイベント等の視察を行いました。

東京湾の“海の森”では、“宇宙ケヤキ”の植樹をしました。“海の森”プロジェクトは、東京湾の入口に浮かぶゴミと残土で埋め立てられた島に48万本の植樹をし、美しい森に生まれ変わらせる循環型社

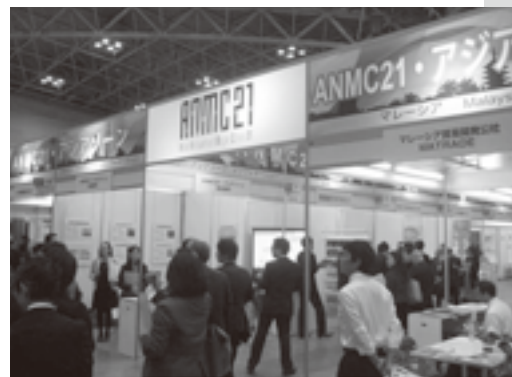


“海の森”での植樹

会のシンボルとしてのプロジェクトです。“宇宙ケヤキ”とは、2008年にアメリカ航空宇宙局（NASA）のスペースシャトル、ディスカバリー号に搭乗した、東京都出身の宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士の星出彰彦さんとともに宇宙を旅したケヤキの種子から育てた苗木です。東京都では、宇宙への夢と地上の緑とをつなぎ、子どもたちに未来への希望を与える東京のシンボルとして活用しており、参加者は、宇宙ケヤキの成長に、アジアの成長と持続可能な地球環境への想いを重ねて植樹をしました。

また、東京ビッグサイトでは、中小企業による国内最大級のトレードショーである「産業交流展2010」を視察

しました。今回は、初めてアジアの企業等の出展ゾーン（ANMC21・アジアゾーン）を設置し、アジアの工業製品や技術など



産業交流展2010「ANMC21・アジアゾーン」

を紹介するとともに、各国政府の海外企業誘致セクションや投資コンサルタントによる国内企業のアジア市場進出のためのビジネス相談も実施しました。また、会場内メインステージではビジネスセミナーを開催し、ベトナム、台湾の専門家等からの講演も行われました。

視察に訪れた各都市の代表団も、限られた時間の中、会場内の各ブースで熱心に質問をするなど、東京とアジア諸都市双方の産業・技術交流の貴重な機会となりました。

視察はこの他、官民が協調して取り組んでいる環境共生型のまちづくりの事例として、大手町・丸の内・有楽町地区の環境戦略拠点である“エコツェリア”や、都内企業の持つ優れたものづくり技術のPRの一環として、三鷹光器株式会社などにおいて行われました。これらの視察を通じて、参加者に東京の環境施策や高い技術力を体感してもらえたことと思います。

東京・アジア月間 ~アジアの魅力を東京で体感~

都庁では、東京総会の会期に合わせて「アジア大都市ネットワーク21展」を都民広場で開催し、4日間で約33,000の方が来場しました。会場には、アジア大都市ネットワーク21の会員都市から観光PRブースや、アジアの文化を実際に体験できるコーナーが出展され、特設ステージでは、インドネシアやソウル、インド等の伝統音楽・舞踊やタイのムエタイのライブパフォーマンスなどが披露されたほか、アジア料理の実演やアオザイのファッションショーが行われ、都民広場はしばし、アジアムードに包まれました。

とりわけ賑わいが目立ったのは、アジア料理を紹介する屋台村で、お昼時と夕方には長蛇の列ができていました。

また、アジアの将来を担う子供たちが「環境」をテ

マに思い思いに描いた絵の展示も行われました。会員都市等の子供たちと、東京にある外国人学校に通う子供たちが「地球にやさしいみらいのまち」、「ごみを減らそう!!」、「きれいな空、きれいな川」をサブ



東京・アジア月間周知ポスター

テーマに、個性豊かな絵を描いてくれました。

この他、アジアで制作された短長編映画およびアニメ作品などアジアの“今”を感じられる映画作品を監督等のトークショーとともに上映する「アジア・シネマ・セレクション」や、アジアの発展や都市問題の解決に向け、首都大学東京で研究活動を行っている留学生および担当教授による「アジアからの留学生による高度研究報告会」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

さらに、民間団体などが主体となり、アジアの美術・文化に関するイベントやジュニアスポーツ大会、貿易・ビジネスミーティングなどのイベントが、都内各地で半年間に40件近く開催されました。

おわりに

今回、総会で採択された「東京宣言」では、これまでの都市間の行政レベルでの交流に加えて、企業や住民など多様な主体の活力を取り込んだ交流推進の必要性についても触れ、官民の連携の促進や、経済・文化・人材育成など幅広い分野での協力関係の構築も提唱しています。

視察やイベント等を通じてアジアの人々に東京の「今」を実感してもらい、また、地域の主役である市民にもパートナーとしてのアジアを身近に感じてもらうことで、やがては、より大きな力として地域の国際化の推進、都市問題の解決や持続可能な発展へとつながることでしょう。なお、次回の総会は、2011年にソウルで開催される予定です。



インドネシアの伝統舞踊